

福島 女子100 6連覇



清水(足寄) 女子5000 14位

陸上日本選手権

陸上の日本選手権最終日は28日、世界選手権(8月、北京)代表選考会を兼ねて新潟・デンカビッグスワンスタジアムで行われ、男子1000000円は高瀬(富山通)が向かい風0.9m/sの条件で10秒28を記録して初優勝し、20000円と合わせ2種目で世界選手権代表に決まった。

女子10000円は福島千里(北海道ハイテクAC)帯南商高出)が11秒50で制し6連覇。20000円と合わせると5年連続の2冠となり、2種目で世界選手権代表に決定した。同50000円は尾西美咲(積水化学)が3連覇し、代表の座を手にした。十勝出身選手では、同50000円決勝の清水美穂(ホクレン)白鷗大、足寄高出)が、16分2秒12で14位だった。

男子ではほかに、既に世界選手権参加標準記録を突破していた4000000の金丸祐三(大塚製薬)が11連覇を達成して代表に決定。5000000の村山紘太(旭化成)、8400000の大会新記録で2連覇したやり投げの新井涼平(ススキ浜松AC)、走り幅跳びを4年ぶりに制した菅井洋平(ミズノ)も代表に決まった。男子砲丸投げでは畑瀬聡(群馬総合ガードシステム)が1800000の日本新記録を樹立し、4

年連続9度目の優勝を遂げた。

地力発揮の初制覇 男子1000高瀬

▽得意の2000000で敗れた前日のショックを断ち切り、高瀬が1000000で地力を見せつけた。終始ミスのないレース運びで初優勝。短距離2種目で世界陸上代表に決まり、「勝ててほっとしている」と胸の内を語った。

スタート時に上体が浮くことが課題だった。決勝は「最初の5歩を低い姿勢で」と意識して序盤を乗り切ると、中盤で頭一つリードした。追い上げを許さず、差を広げてゴール。向かい風でタイムは10秒09の自己記録に遠く及ばなかったが、付

け入る隙を与えなかった。

タイムは10秒09の自己記録に遠く及ばなかったが、付

女王、世界へ照準

「一本でも多く走る」

福島は女子10000円を圧勝して6連覇。20000円との2冠は5年連続となったが、自身の日本記録11秒21の5年ぶりの更新も視野に入っていただけに、11秒50のタイムは不満だった。

女子10000円決勝で優勝した福島千里(左端) 28日、新潟・デンカビッグスワンスタジアム

タイムは不満

「こんなはずではというのと、これが実力かなという思いがある」と歯切れは悪かった。

今月上旬のアジア選手権を好タイムで制するなど、上り調子で日本選手権を迎えただけに自分自身に対する期待は大きかった。8月の世界選手権に向け「一本でも多く走れるように、しっかり準備したい」と決意を示した。